

出前授業を開催しました！

～伊是名小学校、伊江小学校、多良間小学校～

土地改良総合事務所では、10月～11月にかけて、国営事業完了地区(伊是名、伊江)、及び調査地区(多良間)の小学校において、出前授業を開催しました。

農業を取り巻く状況や農業と水の関係、かんがい施設の役割等の説明や、実際に施設を見て触れて感じてもらうことで、児童の農業に対する関心を高め、農業農村整備事業の役割や重要性について理解を深めてもらえたのでは、と思います。

伊是名小学校

令和3年10月22日(金) 4年生 20名

伊是名村土地改良区と連携し、国営かんがい排水事業「伊是名地区」で整備された地下ダムなどの農業水利施設の役割などを学んでもらいました。

▶室内学習－食べ物のはなし、地下ダムのはなし－

「食べ物のはなし」では、日本の食料自給率は低く、多くの食べ物を輸入している現状を説明しました。また、食料自給率を高めるためには、国内や地元で生産された農産物をたくさん消費すること、農家の方々が野菜などをたくさん生産するには畑やかんがい施設の整備が大切であることを伝えました。

「地下ダムのはなし」では、伊是名村に地下ダムを造った理由や降った雨の流れ、地下ダムの仕組みや働きを説明しました。地下ダムなどのかんがい施設が整備されたために、必要な時に簡単に水をかけることができ、おいしい農作物がたくさん栽培できるようになったことについて、児童は興味深く聞き入っていました。



室内学習の様子

▶現地学習－千原第1副貯水池、千原貯水池－

伊是名村土地改良区職員の案内のもと、千原第1副貯水池(PCタンク)に向かいました。強風のため、タンクには上がりませんが、児童からは、「どうしてこんなに大きいのか」、「タンクの水は濾過していいのか」などの質問が出ました。

次に、取水機場にてパネルを活用しながら、かんがい施設整備前後の移り変わりを説明し、送水の仕組みなどを学びました。実際に送水させると、児童は送水管に触れて、「動いている！」「こっちは動いていない！」と声を発しながら、水の流れを体感していました。

最後に、千原貯水池を見学し、「千原貯水池の水は満杯ですか」など活発な質問がありました。聞いて、見て、触れる出前授業を通じて、農業における水の大切さやかんがい施設の役割を学び、農業に対する興味や関心が今後一層高まることを期待しています。



千原第1副貯水池前



取水機場(パネル説明)



取水機場(送水確認)



千原貯水池(集合写真)

伊江小学校

令和3年10月27日(水) 4年生 22名

伊江土地改良区と連携し、国営かんがい排水事業「伊江地区」に整備された地下ダムなどの農業水利施設の役割などを学んでもらいました。

▶室内学習ー地下ダムについて、DVD 上映、止水壁の見学ー

中央管理所では、地下ダムの仕組みや働き、必要性について説明しました。地下ダムの水を利用した「水あり農業」により、干ばつ被害の防止や灌水作業の労力軽減、高収益作物の生産拡大など伊江村の農業の新たな展開が始まっていることについて、児童は真剣な表情で聞いていました。児童からは、「2号ファームポンドはいつできたのか」、「止水壁は修理できるのか」など質問があり、関心の高さが感じ取れました。

次に、「地下ダムの水の恵みとともに」のDVDを見て、伊江村の農業の移り変わりや水の大切さの理解を深めました。また、中央管理所構内にある止水壁の見本を見ると、「すごい！」「どうやって工事するの」など興味深そうに見学していました。

室内学習の様子



止水壁(見本)の見学



▶現地学習ー取水井戸、2号ファームポンド、散水体験ー

伊江土地改良区の職員の案内のもと、取水井戸の見学を行い、井戸の底を覗きながら、地下ダムの水をくみ上げる仕組みを学びました。次に、2号ファームポンドに上がり、屋上の点検用ハッチを開き、ファームポンド内部を見学しました。児童は、2号ファームポンドの大きさに驚きながら、伊江村に広がる畑を屋上から眺め、地下ダムの水が畑に送水されるイメージを掴めた様子でした。

最後に、作付準備中の畑でⅡ型給水栓による散水体験をしました。児童が次々と取水ホースを握りしめ、水圧や空高く舞い上がる水しぶきを感じながら、かんがい設備の重要性を楽しく学ぶ場となりました。

児童からは、「地下ダムの深さは、城山の中腹から頂上くらいまでの高さがあることが分かった」、「地下ダムやファームポンドが農業のためにあることが分かり、すごいと思った」などの感想がありました。今後も、身近にあるかんがい施設を通じた出前授業にて、地域の新たな発見と地域農業の発展につながることを期待しています。

取水井戸見学



2号ファームポンド見学



散水体験



2号 FP



集合写真



※伊江村立西小学校の出前授業は、軽石漂着のためフェリーが欠航となり、土地改良総合事務所職員が来島できなかったため、伊江土地改良区職員のみで同様の出前授業を令和3年11月11日に開催しました。

多良間小学校

令和3年11月2日(火) 4年生 10名

多良間村役場と連携し、農業用水の大切さや農業農村整備事業の役割などを学んでもらいました。

▶室内学習－食べ物の「はなし」、多良間島の水の「はなし」－

「食べ物の「はなし」」では、多くの食べ物を輸入している日本は食料自給率が低いこと、国産だけで食べた場合はお腹いっぱい食べられない現状を説明しました。旬の野菜や地元で作られた農作物を食べることが食料自給率を高める取組になること、農家の方が野菜などをたくさん作るためには、畑や水の整備が重要であることを伝えました。

次に、「多良間島の水の「はなし」」では、多良間島の降水量や降った雨の流れ、農業用水の水源となるため池に水を貯めて畑まで送る仕組み、淡水レンズの調査などについて説明しました。多良間島は集水面積が小さく、ため池の貯水量も多くないため、水を大切に使うこと、地下水を汚さないようにゴミを捨てたりしないほしいとの説明に、児童は真剣な表情で聞き入っていました。



室内学習の様子

▶現地学習－塩川高穴地区のため池、地下水用井戸、グリーンベルト設置－

塩川高穴地区の農業用水として利用しているため池や地下水が見える井戸の見学を行いました。児童は、普段見ることができない施設を間近に見て、ため池の広さや井戸の深さに驚きながら、ため池やファームポンドに貯められる水の量やポンプで水を汲み上げる仕組みを学びました。

次に、多良間村主催のもと、赤土流出を防ぐためのグリーンベルト設置活動を実施しました。グリーンベルトを設置する必要性やベチバーの植付け方法の説明の後、植え付け作業を開始。畑の周囲に15センチほどの間隔で次々に植え付けていきました。初めての作業に「もっと苗を奥まで植えるの?」、「土はどのくらいかぶせるの?」など、職員に質問をしながら、いきいきとした表情で植付け作業をしていました。作業が終了し、きれいに植えられたベチバーのグリーンベルトを眺める児童たちは充実感満載の様子でした。

今回参加した児童からは、「作物を育てるためには水が必要で、多良間島で水を増やすための調査をしていることが分かった」、「たくさんの水がある多良間島になってほしい」、「作物にたくさんの水があげられて、多良間島でたくさんの作物が取れるといいなと思う」との感想がありました。今回植えたベチバーの生育状況を観察しながら、水の大切さやかんがい施設への関心がさらに高まることを期待しています。



ため池前にて



地下水用井戸見学

グリーンベルト設置ほ場



ベチバー植付けの様子



ベチバーの苗

